

令和7年度 公共事業再評価調書

(区分) 国補 県単

1. 事業説明シート

事業名	農地整備事業 [耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業（国補）]		事業箇所	北杜市武川町三吹	地区名	中山	事業主体	山梨県												
計画期間	当初計画	現計画	変更計画																	
	H27～R3	H27～R9	H27～R10																	
総事業費	3,300 百万円	2,985 百万円	2,875 百万円	④特記事項（関連事業概要等） なし																
(1) 事業の概要		⑤これまでの評価状況（平成26年度事前評価） 本事業は、労力を要する地形、農家の高齢化、耕作放棄地の増加等の問題を抱える中で、農作業の効率化、担い手への集積、鳥獣被害による農地の遊休化防止等を進めて農業経営の安定化を図るために必要であり、実施が妥当である。																		
①事業目的及び効果																				
本地区は、県北西部の南アルプス連峰の麓に位置し、かつては養蚕を中心とした農業が行われていた。しかし、養蚕業の衰退に伴い桑園が耕作放棄地となっており、有害鳥獣の住みかになるなど周辺の優良農地へ悪影響を及ぼしている。																				
このような中、地域では耕作放棄地を有効活用していくための話し合いが重ねられ、農地の区画整理などの基盤整備を通じて優良農地への再生を図るとともに、高齢化や後継者不在により耕作が見込めない農地については、地区内外の新たな担い手の参入を進めていくこととした。																				
これらの地域の課題やニーズに対応するため、本事業を実施することにより、農地の区画整理による耕作放棄地の解消や農地の集積と併せ、農業用水施設の整備による農業用水の安定供給を図ることを目的として事業を実施している。																				
<p>□主要目標 ○農業生産力の向上 ・農業所得増加額 9,623千円/ha\geq2,429千円/ha※（※評価基準値）</p> <p>□副次目標 ○農業用排水能力の向上 ○鳥獣被害の軽減</p> <p>□副次効果 ○遊休農地の解消 ○農地の保全</p>																				
②事業概要		現計画	変更計画																	
区画整理		A=40.7ha	→ A=40.7ha																	
用排水路		L=1,500m	→ L=1,500m																	
揚水ポンプ		N=1箇所	→ N=1箇所																	
鳥獣害防止施設		L=4,100m	→ L=4,100m																	
③全体計画																				
		令和6年度まで	令和7年度 (評価実施年度)	令和8年度以降																
現計画	工事内容	区画整理 A=40.7ha 用排水路 L=200m 揚水ポンプ N=0箇所 鳥獣害防止施設 L=0km	区画整理 A=0.0ha 用排水路 L=1,300m 揚水ポンプ N=1箇所 鳥獣害防止施設 L=2,000m	区画整理 A=0.0ha 用排水路 L=0m 揚水ポンプ N=1箇所 鳥獣害防止施設 L=2,100m																
		事業費 2,280 百万円	235 百万円	470 百万円																
変更計画	工事内容	区画整理 A=40.7ha 用排水路 L=200m 揚水ポンプ N=0箇所 鳥獣害防止施設 L=800m	区画整理 A=0ha 用排水路 L=0m 揚水ポンプ N=0箇所 鳥獣害防止施設 L=1,200m	区画整理 A=0ha 用排水路 L=1,300m 揚水ポンプ N=1箇所 鳥獣害防止施設 L=2,100m																
		事業費 2,280 百万円	121 百万円	474 百万円																
※現計画欄は計画値、変更計画欄は前年度までは実績値、当年度以降は計画値を記入。																				



2.評価シート(1)

(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

(今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容)

①地域・住民の意向状況

- すでに新たな担い手農業者による醸造用ぶどうの作付け準備が進められており、地権者で構成する「中山地区土地改良事業推進委員会」では、農地が有効に活用されることを期待し、事業の早期完成を求めている。

②産業・経済情勢

- 労務費・建設資材費の上昇

③国等の方針

- なし

④上位計画・関連事業計画等

- やまなし農業基本計画（令和6年1月策定）

⑤自然環境条件等

- 本地区は埋蔵文化財包蔵地に指定されており、地区全体を試掘調査した結果、区画整理面積の約3割の範囲において発掘調査が必要であることが判明した。

⑥その他

- なし

(2) 評価時点の費用対効果分析

項目	着手時点	変更計画時点
総事業費	3,300 百万円	2,875 百万円
工期	H27～R3	H27～R10
経済効率性	評価基準年	H26 R7
	費用	2,730 百万円 2,575 百万円
	建設費	2,730 百万円 2,575 百万円
	便益	3,950 百万円 2,979 百万円
	作物生産効果	3,340 百万円 2,213 百万円
	品質向上効果	350 百万円 139 百万円
	営農経費節減効果	310 百万円 205 百万円
	その他※	△ 50 百万円 422 百万円
	B/C	1.4 1.2

費用便益分析マニュアルにより算出 採択基準値1.0以上

※その他は、維持管理費節減効果、国産農産物安定供給効果

(3) これまでの計画変更等の概要

- 区画整理の詳細設計において、森林化している外周エリアの傾斜地の一部を区画整理箇所から除外したことに伴う、事業量及び事業費の減。
- 上記による換地の見直しと埋蔵文化財発掘調査に不測の日数を要したため、事業工期を令和9年度までとした。

	当初	現計画
(事業費)	3,300百万円	→ 2,985百万円
(計画期間)	6年延長	
(事業概要)	区画整理 A=50ha	→ 40.7ha

2. 評価シート(2)

(4) 事業進捗状況及び見込み

①進捗率

別表のとおり。

R7年度進捗率(計画) 84.3%→(実績) 80.4%→(変更計画) 83.5%

②進捗率実績が計画と相違している理由

区画整理において、換地の見直しと埋蔵文化財発掘調査により不測の日数を要したため。

③総事業費の変更内容

変更工種等	事業費増減	変更理由
区画整理	110 百万円 減	醸造用ぶどうの新たな産地形成のため、担い手農業者の営農に即した区画形状を検討した結果、切盛土量の減少に伴う工事費の減。
合 計	110 百万円 減	

④事業期間の変更理由及び進捗予定

一部の範囲に軟岩の土質が発生したことにより、その掘削に不測の日数を要したため、工期を1年延長し、令和10年度の完了を予定している。

⑤今後の事業執行における留意点

なし

(5) 環境負荷等への配慮

なし

(6) コスト縮減の可能性

なし

(7) 代替案立案の可能性

なし

(8) 所管部の今後の方針 繼続 (見直し・見直し・見直し) その他 ()

(理由)

新たな担い手農業者の参入による耕作放棄地の有効活用と農業生産性の向上に不可欠な基盤整備であることから、事業を継続し、令和10年度の完了を予定している。

○別表-進捗率(事業費ベース)

算出方法: 【上段】現計画の計画事業費/総事業費×100 【中段】現計画の実績事業費/総事業費×100 【下段】変更計画の計画事業費/総事業費×100

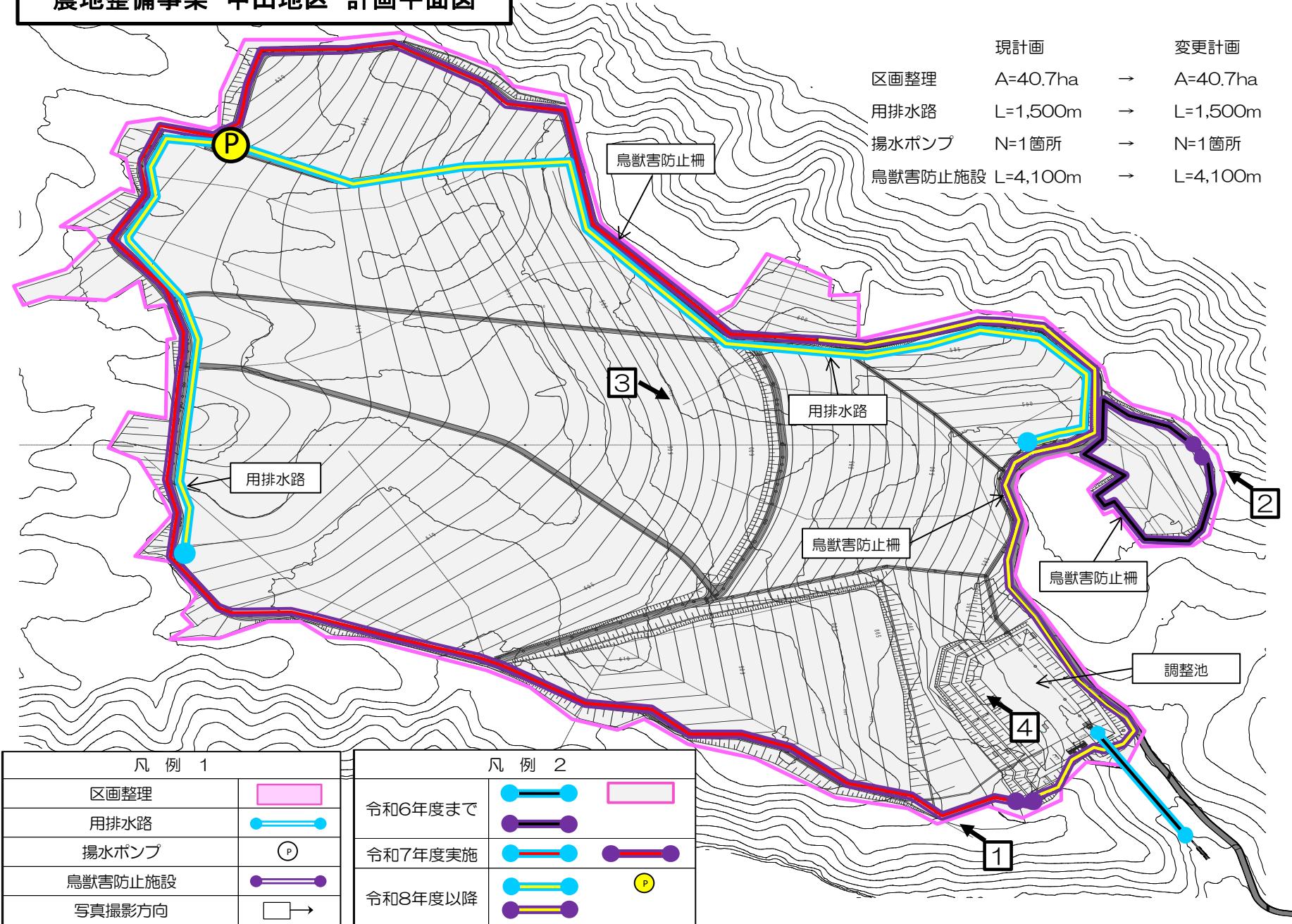
単位: %

年度	*H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
現	計画	4.4	5.2	7.0	7.4	13.3	23.2	32.7	43.0	59.6	76.4	84.3	92.1	100.0
	実績	4.4	5.2	7.0	7.4	13.3	23.2	32.7	43.0	59.6	76.4	80.4	87.1	95.8
	変更計画											83.5	90.5	99.5

*事業着手年度又は評価年度

*R7年度の実績は見込み

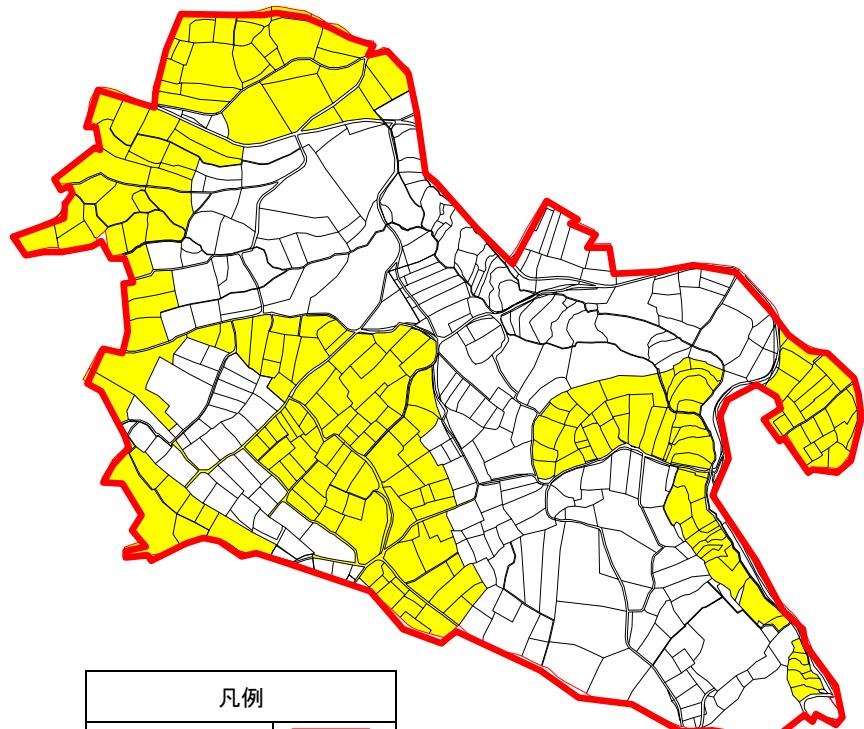
農地整備事業 中山地区 計画平面図



3.添付資料シート（2）

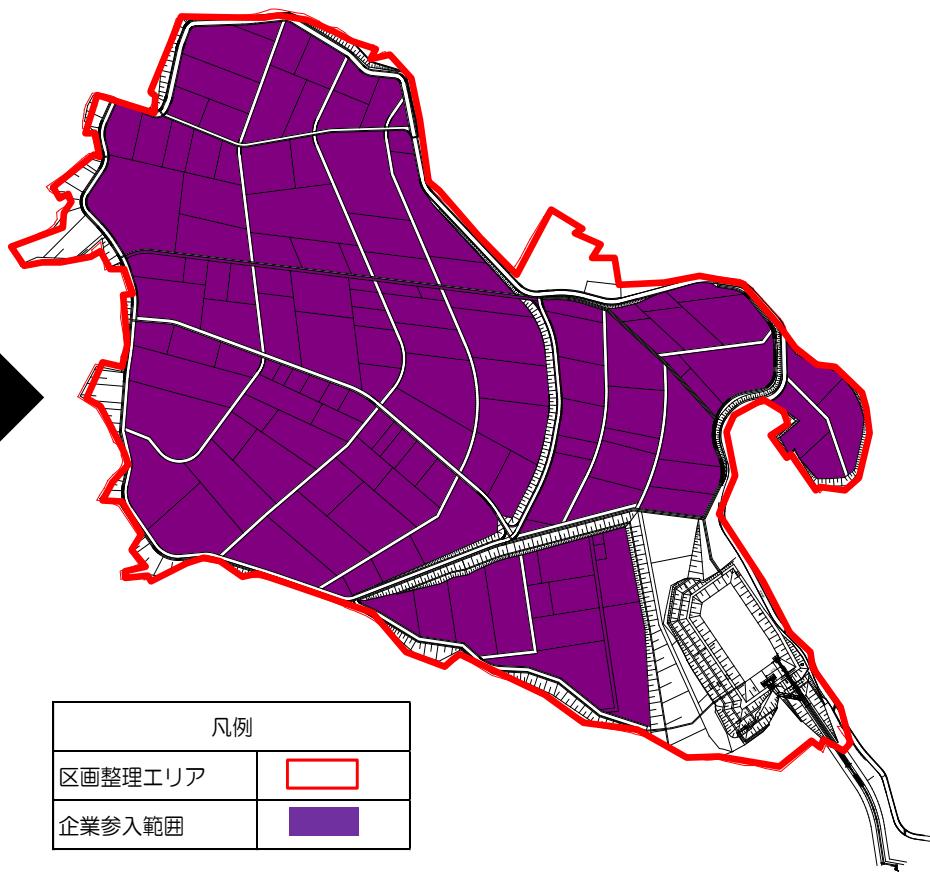
1 区画整理

整備前



凡例	
区画整理エリア	<input type="checkbox"/>
耕作放棄地	<input checked="" type="checkbox"/>

整備後



凡例	
区画整理エリア	<input type="checkbox"/>
企業参入範囲	<input checked="" type="checkbox"/>

整備面積：A=40.7ha
筆数：582筆⇒143筆

扱い手農業者への集積面積 A=30.3ha
耕作放棄地解消面積 A=15ha

大手ワイナリーが一挙に農地を借り受け、国内最大級の醸造用ぶどうの新たな産地が形成される予定である。

3.添付資料シート（3）

1 区画整理

整備前



所有者の土地が分散していることや狭小で不整形かつ、農道に接していない農地もあったため、農作業機械が乗り入れ出来ないなど、営農に支障をきたしていた。また、サルなどの鳥獣被害が発生により営農意欲の低下が加速化し、耕作放棄地が増加していた。

整備後



区画整理により農地の集団化が図られ、営農条件も改善されたことから担い手農業者への農地集積が可能となった。また、鳥獣害防止施設を整備することにより、計画的で安定的な農業生産が可能となり、整備を完了したば場から担い手農業者が醸造用ぶどうの作付を進めている。

3.添付資料シート（4）

2 営農状況：醸造用ぶどう苗木植付状況



整備が完了したほ場では醸造用ぶどうの苗木の植付が開始された。
また、鳥獣害防止施設の整備により、農作物被害を軽減し、安定的な農業生産が可能となった。

3 整備状況：区画整理工



醸造用ぶどう栽培 農園イメージ写真

区画整理が完了し、担い手農業者による醸造用ぶどうの作付を予定している。

4 調整池 軟岩掘削状況



埋蔵文化財発掘調査
土師器（はじき）出土状況



発掘調査では平安時代の集落跡が発掘された。
御牧「真衣野牧」に関連する遺跡とみられ、住居跡のほか土師器や炭焼き窯が発見されている。

4.年度別事業費内訳表（変更計画の内容）

年度	変更事業費 (千円)	事業概要	進捗率 (%)
H27	132,000	測量設計業務一式	4.6
H28	22,000	測量設計業務一式、文化財調査一式	5.4
H29	55,000	測量設計業務一式、文化財調査一式	7.3
H30	11,000	測量設計業務一式、文化財調査一式	7.7
R1	176,000	区画整理（雜物除去工一式）、文化財調査一式	13.8
R2	297,000	区画整理（雜物除去工一式）、用排水路L=200m、文化財調査一式	24.1
R3	284,799	区画整理A=4ha、文化財調査一式	34.0
R4	306,636	区画整理A=9.5ha、文化財調査一式	44.7
R5	494,801	区画整理A=13ha、文化財調査一式	61.9
R6	501,761	区画整理A=14.2ha、鳥獣害防止施設 L=800m、文化財調査一式	79.3
R7	121,000	鳥獣害防止施設 L=1,200m	83.5
R8	200,000	揚水ポンプN=1箇所（配管、基礎工）、鳥獣害防止施設 L=1,100m	90.5
R9	260,000	揚水ポンプN=1箇所（配水池）、用排水路L=1300m、鳥獣害防止施設 L=500m	99.5
R10	13,004	鳥獣害防止施設 L=500m	100.0
合計	2,875,000		